

May I help you? 運動 の発案動機

これは、私が日頃感じて実践している生活のひとコマの行いです。
まだ、これを全面展開して、説明したり、「運動」にしていくには大きな隔たりがあります。
また、命名についてもこの運動の発案は「創発」という藤江先生の言葉どおりモヤモヤな内容です。

さて、自分は市川市に生まれ、育ち、現在暮らしている者ですが、これまで市川市になかった文化として「品」という、人間にとって大切なことを「浮かび上らせ考えてみたい」と思います。

現代は確かに忙しく、自らの仕事や用事、家事、世話、つき合いを時々刻々と処理していくのに追われています。新しい事件、驚愕するようなニュースは数分毎にマスコミを通じ知らされる時代です。誰も好きでそうなるわけではなくても、所詮行き交う人波は他人事ですし、いちいち人のことなど構ってられません。

忙しければ忙しいほど、他者へ対する配慮は後回しとなり、自分がすべきことを処理するのが精一杯の世の中です。

しかし、例えば悪ガキが弱い者いじめをしていたり、盛夏に帽子もかぶらずアスファルトの道路を歩いている小学生を見たりすれば、「君たち、なにやってるの?」とか「外を歩くときは帽子をかぶろうね」などという言葉が、なんの抵抗もなくスラスラ出るのに、「めんどくさいや」とその場を過ぎ去ることが多々あるのではないのでしょうか。

自分にはこの後予定が入っていて、そんなどころではないという時もあるでしょうし、ガキに注意をして不審者と思われたり、親が怒鳴り込んでくる、なんてことを思っていたら、だれも、他者を配慮したりしなくなる、いわば冷た〜い人間関係しか無い街、地域になるのではないのでしょうか?

高齢者（我々の人生の先輩たち）のかたが、駅でパスモをチャージできなくて困惑しているとき、ほんのちょっと、パネルの操作をお手伝いしてもいいのではないのでしょうか?もしその人が困っていて、ちょっと助けが必要と思っているようなときにです。

May I help you?

適当な日本語が見つかりませんが、さりげなく、やさしく、ひかえめに「こんな私にもできることあるはず」

May I help you?

「何か私にお手伝いできることがありますか?」と優しく一声をかけるタイミングと勇気を持ちませんか?

わたしは、人には他者に対する思いやりという品、品性、気品というような控え目で温かく優しい文化が大切なのではという思いがあります。

「いちかわ」ではかつてあまり耳にしたことがない、「気品」という文化を新しく作ってみたい。そして、私の街いちかわが、「うるおいやゆとりや思いやりのある、人や自然にやさしい・あたたかい都市」であってほしい、そんな街に皆さんの気持ちひとつで変えていきませんか?できるときに、余裕がある時でいいのです。と提案していきたいと思い、この **May I help you?**運動を発案します。

May I help you?

人として 生きる

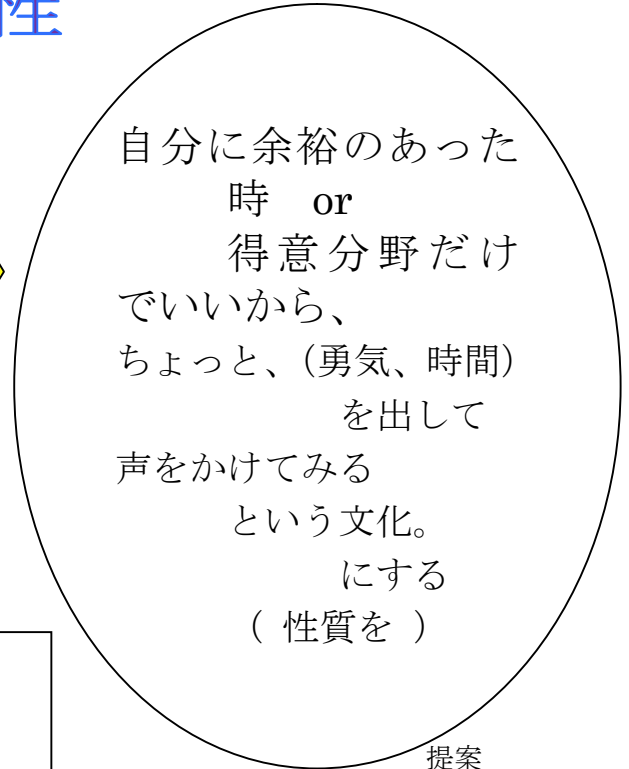
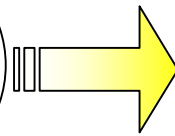
人として 生きる

という ときの

生き方 品性

2月12日の講座で
井関先生が
ヒントとしておっしゃって下さ
った言葉 仏語で セラビ?
適当な言葉は、未だ見つかってい
ない

問題意識



提案

今まで

「これをやめて、皆で
助け合うようにしましょう!
・・・という運動」
にしてしまうと、
ここに強制的な(自己満足・おごった感じ)性質が混ざって
プレッシャー(反発、反感)になる可能性がある・・・

目的

狭義	自分のためにやるのではない 人のため、相手のため
広義	人としての品位 を持つ・保つ 「文化」 なのかな?